



# 東京都市大学 設計・監理東急設計コンサル、施工は東急・大成 新1号館(世田谷区)が竣工 五島育英会 環境に配慮した施設

五島育英会が東京都世田谷区の東京都市大学世田谷キャンパスで建設していた新1号館の写真が完成した。21日に現

地で竣工式が行われた。建物は延べ約1万5000平方メートルの規模で、設計・監理は東急設計コンサルタンツ、施工は東急建設・大成建設が担当した。式典では、五島育英会の安達功理事長、東京都市大学の北澤宏一学長、東急設計コンサルタンツの酒井誠取締役兼常務執行役員、東急建設の飯塚

恒生社長、大成建設の安川英利専務執行役員が玉串をささげ、工事の無事完成を祝った。神事後の直会で安達理事長は「この建物は環境に配慮し、採光・自然通風システムを採用するほか、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の排出を抑制するため、太陽光発電などを備えている。本学の中核となる施設を有効に使ってほしい」と述べた。北澤学長は「先進的な設計で、学生の学びにとって非常に良い環境だ」と語り、酒井取締役は「第2期工事の完了により、全館が完成した。施設中央部に吹き抜け空間を設け、内部空間に広がりを持たせるとともに、自然採光などのサステイナビリティを実現した。新1号館の完成により、世田谷キャンパスの教育環境が充足し、今後のさらなる再整備が進むことを願っている」とあいさつした。飯塚社長は「工事の際は、東日本震災や政権交代などさまざまな環境の変化を経験した。最新の機能を有する第1号館の施工に携わることができ、とても光栄だ。学生の安全を考慮して無事故・無災害で工事ができたことをうれしく思う」と述べた。同大の所在地は玉堤1の28の1(敷地面積2万3971平方メートル)。完成した新1号館は教室・研究室、学生支援センターなどを備え、規模はRC造地下1階地上4階建て延べ1万4988平方メートル。総事業費は51億5000万円。

あいさつする安達理事長



■この記事・写真等は日刊建設工業新聞社の許諾を得て転載しています。無断で複製等、著作権を侵害する一切の行為を禁止します。

学校法人 五島育英会